

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部



令和八年八月度 入賞句一覧

投句数 六百三十一句

特選

長町 誠司 選

満たされぬからこそ満つる星月夜

各務原市 桑原 緑

観念的な要素のある句。作者の想いがこのような句となりました。発想の新しさから、類句が少ないように思えます。哲学的な理のある上五・中七の内容にぴったりの季語「星月夜」がよく効いています。「星月夜」とは、月がないのに月夜のように明るい星空のことです。季語をよく知る作者。

旧友に旧姓呼ばれ天の川

大垣市 竹中 美穂子

外出中、突然に呼び止められた作者。それが旧姓でというのですから、さぞ驚いたことでしょうね。この句、「旧」の字で韻をふむことでリズムも良くなり、お互いの距離感が一気に縮まった様子が読者にも感じ取れます。取り合わせた季語の「天の川」からは、当時のお二人についての想像の幅が広がります。

蟬しぐれ見上げる空に夢ひとつ

不破郡垂井町 中嶋 結映

短い命を懸命に鳴きとおすたくさんの蟬たち。この声音を、時雨の雨音になぞらえた「蟬しぐれ」という季語が、作者の真つ直ぐな思いを伝えます。聴覚の季語「蟬時雨」から、見上げる空へと、自然のつながりで視界が広がります。音も含有した大空は、作者の育む夢そのもののなのです。

秀逸

墓参これが最後と言ふ母と

養老郡養老町 田中 紫香

大の字で出来栄えを見る夏座敷

大垣市 平野 順一

遠き日の男教師のコロンの香

大垣市 宇佐美 昭子

秋めくや遠くなりたる佛たち

安八郡輪之内町 野村 照子

自動ドア開き炎帝現はれり

不破郡垂井町 北村 廣美

噴水の天辺の水慌てをり

養老郡養老町 佐藤 咲楽

茗荷の子大人になつて解ること

大垣市 北浦 典子

夜の秋冷めたミルクの甘きこと

東京都新宿区 山崎 力

夕涼や母と吟じる五丈原

埼玉県越谷市 小田 毬藻

万緑の山に抱かれに帰りけり

神奈川県相模原市中村 光枝

入選

炎天を背負つてゐたる婆の腰

東京都新宿区

花澤 ちいこ

無人駅有人となる海開き

岐阜市

辻 雅宏

肩書のとれて甚平よくなじむ

愛媛県松山市

平野 ヒサエ

四睡庵水琴窟の音涼し

大垣市

傍島 豊子

花火見る君を見ている僕がいる

静岡県駿東郡

尾中 志慶

錆釘のごとく蚯蚓の干乾びぬ

大垣市

村瀬 佐智子

さはさはと風の新らし今朝の秋

大垣市

後藤 喜美男

悠久の刻を食る昼寝の児

大垣市

三輪 実

秋口の皿の和菓子の白さかな

安八郡輪之内町

野村 照子

墓洗ふ母の思ひを聞かぬまま

三重県四日市市

井立 美智乃

亡き母によく似た人の盆踊

兵庫県神戸市

岸下 庄二

校門の細く開きて夏休み

東京都足立区

山崎 董久

酔芙蓉閉じれば船頭竿を置く

大垣市

大橋 浩美

青空へ向く8月のマイクかな

滋賀県長浜市

野口 成人

香水や我が私に変わりゆく

大垣市

柴田 えり子

選者吟

肩書は器にあらず水中花

せいじ



一般の部